

## 幕末の英和辞書における邦訳の比較考察

三好 彰

キーワード: 諳厄利亜興學小筈、諳厄利亜語林大成、  
英和对訳袖珍辞書、波留麻和解、  
和蘭字彙、英和辞書、オランダ語、  
和蘭通詞

### 要旨

西暦 1814 年に編まれた英和辞書『諳厄利亜語林大成』と西暦 1862 年に市販された『英和对訳袖珍辞書』はオランダ語を介して邦訳が得られたとされてきた。しかし英語と日本語から見て多義であるオランダ語があるためにオランダ語の知識だけでは英語に対応する日本語が得られないことがある。そのことを両辞書の関係者が承知していたことを筆者が明らかにしたが、これらに先行して西暦 1811 年に作られた英単語集の『諳厄利亜興學小筈』でもこの問題が認識できていたことを具体例で示す。

また『諳厄利亜語林大成』と『英和对訳袖珍辞書』に共通に採録されている見出し語の邦訳を比較検討して関係者の語学力に問題があったことを例示する。

### 1. はじめに

文化 11 年 (西暦 1814) に最初の英和辞書である『諳厄利亜語林大成』(本木 1814) が編纂された。それから半世紀後の文久 2 年 (西暦 1862) に『英和对訳袖珍辞書』(堀 1862) が刊行された、これが市販された最初の英和辞書である。長崎歴史文化博物館に現存する『諳厄利亜語林大成』の草稿(本木 1982a) は英語の見出し語に、そのオランダ語訳を添えたうえで邦訳語が書かれている。『英和对訳袖珍辞書』の見出し語はオランダで刊行された英蘭辞書 Picard (1857) に拠っている (三好 2012)。このように両辞書とも江戸時代を通して培ってきた蘭学の成果の上に立っている。

しかしオランダ語を介しただけでは英和辞書が作れないことを両辞書の編纂者が認識していたことを筆者は先の報告で明らかにした(三好 2013)。その要点は、あるオランダ語訳が日本語と英語から見て多義の場合に当該の英語の意味に適合した日本語を選び出すにはそのオランダ語訳だけからではできないことにある。

ところで『諳厄利亜語林大成』に先駆けて文化 8 年 (西暦 1811) に『諳厄利亜興學小筈』が作られた。その草稿が長崎県立歴史文化博物館に現存する(本木 1982b)。この『諳厄利亜興學小筈』は「類語大凡」、「平用成語」および「学語集成」の 3 つに分類されているが、これらの分類を現代の言葉で言い直すと「類語大凡」は「英和単語集」、「平用成語」は「常用英語例文集」で、「学語集成」は「英会話文例集」となる。本稿では単語集である「類語大凡」に

においてオランダ語訳が多義な場合の問題点が認識されており、この場合でも英語に適合した邦訳語を選んでいることを例証する。

ついで『諸厄利亜語林大成』と『英和对訳袖珍辞書』の邦訳語を比較することによって、両辞書の編纂関係者がオランダ語と英語の理解に関して問題を有していたことを例によって示す。

## 2. 『諸厄利亜興學小筈』の「類語大凡」の考察

『諸厄利亜興學小筈』の「類語大凡」は用語を乾坤、時候、数量、官位人倫人事、支體、気形、器財、服食、生植、言辭と10の分野に用語を分類し単語を並べている。この分類で「乾坤」は天体・天候・地名・地形・鉱物・施設名など、「支體」は肢体・病名・薬剤など、「気形」は動物、「器財」は食器・道具・楽器など、「生植」は植物、「言辭」は形容詞や抽象名詞などを指している。

見出し語の総数は約2千3百である。その中に重複して出ている単語がある。たとえば用語の分類「乾坤」部に「尺」の意味の Foot、「支體」部に「足」の意味の Foot と同じ綴りで意味の異なる英単語 Foot が出ている。ちなみに『諸厄利亜語林大成』では見出し語 Foot の邦訳が「足 ヲシ 又 尺名」となっており両義を取り込んでいる。このように『諸厄利亜興學小筈』は用語の分類をもとにした単語集であって、見出し語総数が約6千語から成る英和辞書である『諸厄利亜語林大成』と構成法を異にしている。

なお『諸厄利亜興學小筈』に出ているが『諸厄利亜語林大成』に採録されていない見出し語に World や First など18語がある。これら18語が『諸厄利亜語林大成』に採録されていないのは両書の編集方針が違っているためと考えられる。

「類語大凡」では英語の見出し語にカナで発音を示して邦訳語を記しているのは『諸厄利亜語林大成』と同じであるが、『諸厄利亜興學小筈』は『諸厄利亜語林大成』の草稿のように英語の見出し語にオランダ語訳を与えていない。しかし『諸厄利亜興學小筈』の序文である「嚮」は『諸厄利亜語林大成』と同じように本木正栄が書いているので、本稿では『諸厄利亜興學小筈』に採録されている英単語に対するオランダ語訳は『諸厄利亜語林大成』の場合のそれと同じであるとみなして両者の邦訳を比べて考察する。なお本稿では煩雑さを避けるために英語の発音を表示しないことを断っておく。

オランダ語訳が多義語であることが邦訳に与えている影響を考察するにあたり曖昧性が入り込まないように『諸厄利亜興學小筈』の見出し語の英語に対して『諸厄利亜語林大成』が1つのオランダ語訳を与えている見出し語を考察の対象とする。これは『諸厄利亜興學小筈』の見出し語の76%に当たる。この中からオランダ語訳が同じである複数の英単語を選び出す、それらは邦訳の意味が同じであるケースと異なるケースに2分される。

### 2.1 オランダ語訳が同じで邦訳の意味が同じである英語の見出し語

『諸厄利亜興學小筈』には、オランダ語訳が同じで邦訳の意味が同じである英語の見出し語が49組ある。それは3つの見出し語が共通のオランダ語訳を持つケースが1組と、2つの見出

し語が共通のオランダ語を持つケースが48対なので、これらの見出し語の総数は99語である。これら49種のオランダ語訳に日本語から見て多義であるケースはないので各組は同義である。

これら49組について『諸厄利亜興學小笈』と『諸厄利亜語林大成』の邦訳を比べると、その表現が全く同じもののほかに、ちょっとした差があるものがある。表現の差が出る1つの要因は『諸厄利亜興學小笈』がページ内で2段構成なのに対して、『諸厄利亜語林大成』が1段構成のためである。つまり前者は後者よりも邦訳を書き入れる場所が狭い。狭くても邦訳が漢語表現だけなら差が出ないが、漢字表現に訓読みを与える場合に差が出る。つまり前者では領域が狭いので訓読みをルビで与えており、領域が広がった後者では漢字の後方に訓読みを付加する形式に変えている。1例としてオランダ語訳が *spruit* である2つの英語 Bud と Sprout を取り上げると、その邦訳は『諸厄利亜興學小笈』では「蘗<sup>ヒヨバエ</sup>」だが、『諸厄利亜語林大成』では「蘗<sup>ヒヨバエ</sup>」である。

なお『諸厄利亜興學小笈』で漢字表現だけだった邦訳(たとえば見出し語 Coney の邦訳は「白兔」)に、『諸厄利亜語林大成』では訓読みを与えたものがある(たとえば Coney の邦訳は「白兔<sup>シロウサギ</sup>」に変わった)。この場合も邦語の表現に差があるが意味は変わらない。

1組だけ漢字の間違いを直したものがあり意味を変えたと早とちりしかねないものがある。それはオランダ語訳が *de kraan van een vat* である英単語 Tap と英語の句 Cock of a barrel であり、『諸厄利亜興學小笈』では Tap は「榦管<sup>ツグチ</sup>」だが『諸厄利亜語林大成』では「榦管<sup>ダシグチ</sup>」と漢字「榦」の間違いに気が付いて「桶」に直している。読みは「ダシグチ」のまま変えていないので『諸厄利亜興學小笈』も意味を取り違えてはいない。『諸厄利亜興學小笈』は Cock of a barrel を「榦管<sup>ツグチ</sup>」としているが、漢字「榦」の間違いに気づいて『諸厄利亜語林大成』では「竹嘴<sup>タケヅチ</sup>」に改訂している。同じオランダ語訳 *de kraan van een vat* から邦訳を得て「榦管<sup>ダシグチ</sup>」と「竹嘴<sup>タケヅチ</sup>」と同義で別の表現になっているのは邦訳を付けた人が別人のためと考えられる。

## 2.2 オランダ語訳が同じだが邦訳の意味が異なる英語の見出し語

オランダ語訳が同じだが邦訳の意味が異なる複数の英語の見出し語が16ケースある。同じオランダ語訳を3つの英語の見出し語を持つ4つのケースと、2つの英語の見出し語が1つのオランダ語訳を持つ13のケースから成り、見出し語の総数は38語である。

当該のオランダ語訳が英語と日本語から見て多義であるために邦訳の意味が異なるのだが、これには用語の分類が異なるケースと同一のケースとがある。

### (a) 英語の見出し語の用語の分類が異なるケース

オランダ語訳が同じで邦訳の意味が異なる英語の見出し語で用語の分類が異なるケースは2つに分かれる。

その1つはオランダ語訳と英語の見出し語が同じだが用語の分類によって邦訳が異なっているものである。これはオランダ語訳と英語は1:1に対応しているが日本語では多義になるため

だが、『諸厄利亜興學小笈』には7ケースあって英語の見出し語の総数は14語である。

2つ目は複数の英語が1つのオランダ語訳に対応し、邦訳が用語の分類によって異なるものである。これはオランダ語訳が英語と日本語から見て多義であることによる。『諸厄利亜興學小笈』には4ケースある、このうちの1ケースは3つの英語が1つのオランダ語訳に対応するので総計の英語の見出し語数は11語である。

両方を合わせると12ケースで、英語の見出し語の総数は25語である。それぞれについて述べる。

(a-1) オランダ語訳と英語の見出し語が同じで用語の分類によって邦訳が異なる例

オランダ語訳と英語の見出し語が同じで用語の分類によって邦訳が異なる例に、上述した英語 Foot がある。そのオランダ語訳は *voet* であり、邦訳は用語の分類「乾坤」では「尺」であって「支體」では「足」である。英語 Foot とオランダ語 *voet* が日本語から見て「足」と「尺名」の両義のためであるが、用語の分類から邦訳語を区別することができる。

そして『諸厄利亜語林大成』では見出し語 Foot の邦訳が「足 ヲシ ヌ 尺名」と両義が併記されている。『諸厄利亜語林大成』の利用者は文脈から「足」と「尺名」のどちらを取るかを判断できる英語力が必要になる。このように英語とそのオランダ語訳が日本語から見て用語の分類を異にする両義を有する他の事例を表 2.1 に示す。

表 2.1 英語とそのオランダ語訳が日本語から見て用語分類を異にする両義を有する事例

用語分類	諸厄利亜語林大成 オランダ語訳	諸厄利亜語林小笈 英語見出し語	諸厄利亜興學小笈 邦訳	諸厄利亜語林大成 邦語訳
時候	<i>eijnde</i>	The end	スエ 末	終 又 末
言辭		End	終	
乾坤	<i>klaar</i>	Clear	晴	晴 又 明ナル
言辭		Clear	明	
服食	<i>scherp</i>	Sharp	辛	カラシ スルドシ 辛 又 尖鋭
言辭		Sharp	鋭	
氣形	<i>spoor</i>	Spur	ケツメ 巨	アブミケツメ 巨 ケツメ 鑿巨
器財		Spur	アブミケツメ 鑿巨	
氣形	<i>kam</i>	Comb	カプト 冠	カプト 匆冠 禽鳥ノカプト
器財		Comb	クシ 櫛	
乾坤	<i>kleer kamer</i>	Wardrobe	衣房	衣房 イシヤウヘヤ
官位人倫人事		Wardrobe	シタテヤ 縫匠	

なお『諸厄利亜語林大成』が Comb に「櫛」を入れていないのは見落としたようだ。Wardrobe

に「縫匠」を入れていないのは Wardrobe に「衣装係」の意味があるが、これは「縫匠」ではないとみたためだろう。

(a-2) 複数の英語の見出し語が同一のオランダ語だが用語の分類に拠って邦訳が異なる例

複数の英語の見出し語が同一のオランダ語訳を持つが用語の分類に拠って邦訳が異なる 1 例を挙げると、オランダ語訳が *rechter* である英語の見出し語に、用語の分類が「官位人倫人事」である Judge と「言辭」である Right の 2 つがあり、『諸厄利亜興學小筈』は前者を「<sup>クジツイバンヤク</sup>断事官」とし、後者を「右」として訳し分けている。オランダ語 *rechter* に「断事官」(裁判官のこと)と「右」の両義があることを知っていた大木等のオランダ語力が背景にあるが、そのオランダ語力で用語の分類が「官位人倫人事」なら「<sup>クジツイバンヤク</sup>断事官」、「言辭」なら「右」と訳し分けることができたわけである。逆に言えば用語の分類が示されていないならば、オランダ語訳だけからでは Judge が「右」でなくて「断事官」であり、Right が「断事官」でなくて「右」とであると訳し分けることはできない。

なお同じオランダ語 *rechter* から邦訳を得たと見なせる『諸厄利亜興學小筈』と『諸厄利亜語林大成』の英語 Judge の邦訳だが、前者で「断事官」だった邦訳が後者で「監 × 断事官」と「監」を加えて改訂されており英語の理解が進んだことを示している。そのほかの英語見出し語にも『諸厄利亜語林大成』で邦訳に意味を付け加えたケースがあるので表 2.2 に示す。

表 2.2 オランダ語訳が同じで用語の分類と邦訳の意味が異なる英語の見出し語

用語分類	諸厄利亜語林大成 オランダ語訳	諸厄利亜語林小筈 英語見出し語	諸厄利亜興學小筈 邦訳	諸厄利亜語林大成 邦語訳
支體	<i>arm</i>	Arm	ヒヂ 肘	ヒヂ 肘 擘
言辭		Poor	貧	貧窮ナル
言辭	<i>oud</i>	Ancient	古	古 フルシ フルキ
時候		Ancient	古	
官位人倫人事		Old	老	老 × 齡
乾坤	<i>hol</i>	Den	峒 ホラ	峒 ホラ
言辭		Hollow	中虚	<sup>クボキ</sup> 中虚 × 窪
支體	<i>hert</i>	Heart	心臟	心臟 × 心意
氣形		Hart	鹿	鹿 シカ

(b) 英語の見出し語で用語の分類が同じケース

上記(a)は用語の分類が異なる場合であり、この用語の分類が邦語を決める上で意味を持っている。用語の分類が同じである複数の英語の見出し語でオランダ語訳が同一の場合はどうなるかを検証する。このケースが『諸厄利亜興學小筈』に同じオランダ語訳を 3 つの英語の見出し語が共有する 3 つのケースと、2 つの英語の見出し語が 1 つのオランダ語訳を共有するケースから成り、見出し語の総数は 11 語である。

1 例としてオランダ語訳が *been* で同じである 2 つの英単語 Bone と Leg を取り上げる。こ

の2つの用語の分類はともに「支體」なので、用語の分類が両語の意味を識別するのに役に立たない。つまりオランダ語 *been* は「骨」と「脚」の両義を持つので、英語 *Bone* が「脚」でなくて「骨」であると判別するのはオランダ語 *been* だけからではできない。

筆者が先の報告(三好 2013)で明らかにしたように大木は『諳厄利亞語林大成』ではこのような場合にフランス語を活用した。それゆえ『諳厄利亞興學小笈』でもフランス語を利用したと考えられる。大木の利用したフランス語の典拠が不明なので、参考までに現代の簡便なフランス語辞典を見ると、英語 *Bone* はフランス語で *os* であり、英語 *Leg* はフランス語で *jambe* なので、フランス語なら「骨」と「脚」を区別できる。つまり大木等は『諳厄利亞興學小笈』の編纂段階で既にオランダ語訳だけでは英和対訳単語集を作ることができないことを認識できていたわけである。

このような用語の分類が同じであってオランダ語訳が同じで邦訳の意味が異なる複数の英語の見出し語が上記のオランダ語訳 *been* の他にもあるので表 2.3 に示す。

表 2.3 オランダ語訳が同じで邦訳の意味が異なり用語の分類が同じである英語の見出し語

用語分類	諳厄利亞語林大成 オランダ語訳	諳厄利亞語林小笈 英語見出し語	諳厄利亞興學小笈 邦訳	諳厄利亞語林大成 邦語訳
生植	<i>doorn</i>	Thorn	イゲヤブ 薔薇藪	薔薇 イゲ
生植		Thorn	ハリ 刺	
生植		Prickle	ハリ 刺	芒刺 ハリ
言辭	<i>leedig</i>	Empty	虚	虚
言辭		Idle	閑暇	閑暇ナル
乾坤	<i>lucht</i>	Sky	ヲラソラ 大虚	大虚 又 空
乾坤		Air	大虚	ヲラソラ ソラ 大虚 又 空
乾坤		Air	空	
器財	<i>trechter</i>	Tunnel	ジャウゴ 漏斗	ジャウゴ 漏斗
器財		Funnel	ジャウゴ 漏斗	ジャウゴ 漏斗
器財		Hopper	ジャウゴ 漏斗 磨粉車等を用る大なるもの	ジャウゴ 漏斗 磨粉車等を用る大なるもの

### 2.3 『諳厄利亞興學小笈』の「類語大凡」の考察のまとめ

『諳厄利亞興學小笈』の見出し語の英単語に対して『諳厄利亞語林大成』が1つのオランダ語訳を与えているケースで英単語に対するオランダ語訳が同じである組を取り上げて検討した。これらは邦訳の意味が同じになるケースと異なるケースに2分されるが、前者の場合はオランダ語訳と邦訳とが1:1に対応するので邦訳の確定に当たり混乱は起こらない。

これに対して後者ではオランダ語が日本語と英語から見て多義である。それゆえ英語と日本語を対応させることはオランダ語訳ではできずフランス語の知識を利用したことを明らかにす

ることが出来た。この知見が『諸厄利亜語林大成』の編纂に引継がれていることは先の報告(三好 2013)の通りである。

### 3. 『諸厄利亜語林大成』と『英和对訳袖珍辞書』の邦訳の比較

『諸厄利亜語林大成』(本木 1814)の見出し語数は約6千であり、『英和对訳袖珍辞書』(堀 1862)のそれは約3万5千語である。そして両辞書に共通に出ている見出し語が約4,800語あるので、その邦訳語を比較して考察する。

先ず見出し語に対する邦訳語の語数を比べる。1つの例として *Organ* を取り上げると『諸厄利亜語林大成』では「楽器」であるが、『英和对訳袖珍辞書』(堀 1862)では「五官、机関身体ノ、風楽、風琴」であるように前者が初学者向けに限定的に英語を捕えており、後者は広げている。この例だけでも英語力の高まりがみられる。見出し語の英語に対する邦訳語の数は、*Organ* の場合『諸厄利亜語林大成』では1:1だが、『英和对訳袖珍辞書』では1:4である。これを両辞書に共通である4,800の見出し語全体でみると、表3.1のようである。

表3.1で『英和对訳袖珍辞書』で邦訳語数が0であるのは、*Fewel, see Fuel* のように同義語を参照するに留めて邦訳語を与えていないようなケースであり、『諸厄利亜語林大成』には見られない。表3.1に示すように『諸厄利亜語林大成』では74%もが単一の邦訳語から成っている。

表 3.1: 見出し語に対する邦訳語数の分布

邦訳語数	諸厄利亜語林大成	英和对訳袖珍辞書
0	0%	1%
1	74%	42%
2	21%	28%
3	4%	15%
4	1%	7%
5	0%	3%
6以上	0%	4%

『諸厄利亜語林大成』と『英和对訳袖珍辞書』の英語力、オランダ語力を簡便に比較するために邦訳語が1つである見出し語であって『諸厄利亜語林大成』の草稿が与えているオランダ語訳が1つだけのものを検討の対象とする。該当する見出し語は1,585語であり、『諸厄利亜語林大成』全体の27%である。このうちの1,550語は『諸厄利亜語林大成』と『英和对訳袖珍辞書』とで同義である。なお同義のなかには日本語の表現が両辞書で共通に同じもののほかに、たとえば *Afternoon* が『諸厄利亜語林大成』では「差午」であり『英和对訳袖珍辞書』では「昼後」のように日本語の表現が両辞書で異なるものも含めた。

残りの35語は『諸厄利亜語林大成』と『英和对訳袖珍辞書』で意味が異なっている。この35語に言語上の問題があるので以下の3.1から3.5までの5つのケースに分けて論ずる。

#### 3.1 多義であるオランダ語に紛らわされた『諸厄利亜語林大成』の誤訳

筆者が先の報告(三好 2013)で明らかにしたことだが念のため記すと、Sable を「片刃鋸」と訳しているのは誤訳である。オランダ語訳 *sabel* に「片刃鋸」と「クロテンの皮」の両義があるが、英語の Sable は「クロテンの皮」のことであり「片刃鋸」の意味がない。つまり多義であるオランダ語 *sabel* に紛らわされた誤訳である。このようにオランダ語を介しただけでは英語に対応する邦訳が得られないことに注意が必要である。『諸厄利亜語林大成』では Sable のほかに、英語見出し語 Ancle、Awl、Shovel も同じように多義であるオランダ語に惑わされて誤訳になっている(三好 2013)。

『英和对訳袖珍辞書』ではこれらの4語<sup>1</sup>に誤訳は認められず、これらについてはこの問題が解決できている。しかし先の報告(三好 2012)で明らかにしたように、Easel、Yacht、Scion、Coulter、Baize、Indorous、Rear Admiral、Spavin の8語の邦訳が多義であるオランダ語訳に紛れて誤訳になっている。

### 3.2 オランダ語の理解不足による『諸厄利亜語林大成』の邦訳の間違い

『諸厄利亜語林大成』を編纂したのは序文に書かれている本木正栄、馬場貞歴、末永祥守、檜林高美、吉雄永保の5人であり、長崎のオランダ通詞として後世に名を留めているが、オランダ語の理解が不十分だと思える邦訳がある。

たとえば英語 Bakehouse の邦訳は「陶家 セトモノシ」としているが、そのオランダ語訳 *bakkerij* は「パンを焼く所」を意味するので「陶家 セトモノシ」は正しくない。ちなみに寛政8年(1796)に完成していた我が国で最初の蘭和辞典である『波留麻和解』(稲村(1796)<sup>2</sup>は *bakkerij* を「麦餅ヲ焼ク処」と正しく意味を捕えている。類例がほかにも7例あるので、Bakehouse を含めて表3.2に掲げる。表3.2で『波留麻和解』の項で --- としたのは対応するオランダ語が同辞書に採録されていないことを示す。

また英語 Curtain に対応するオランダ語 *gordijn* は『波留麻和解』の訳語が示すように日本語では多義であるから Curtain に対応する邦訳を得ようとすると、オランダ語によらない方法で適語を選び出さねばならない。

英語 Stockjobbers は『英和对訳袖珍辞書』の邦訳「出商ヒヲスル人」も妥当でないが、『諸厄利亜語林大成』の「候覗者 諸州ニ來往シテ巷説ヲ候覗スル者」に比べれば理解が進んだと言えよう、いずれにしても西欧の経済の仕組みを学ぶのは後年のことである。

英語 To kiss を『諸厄利亜語林大成』は「握手 テヲニギル」としているが、『波留麻和解』は「口ヲ吸ヒ手ヲ握ル」であり、いずれも適訳でないのは西欧の慣習が理解しづらかったからである

<sup>1</sup> これら4語の中で Ancle だけが『諸厄利亜興學小笈』に採録されている。『諸厄利亜語林大成』は Ancle を多義であるオランダ語訳 *enkel* に紛れて「單 ヒトエナル」と訳している。『諸厄利亜興學小笈』は Ancle を「蹠」と英語の意味に合う訳を得ているのは Ancle の用語の分類が「支體」なので「單 ヒトエナル」ではなく「蹠」だと判断できたためと考えられる。

<sup>2</sup> 稲村三伯(1759~1811)が石井恒右衛門・宇田川玄隨らの協力を得てフランソア・ハルマ François Halma の蘭仏辞典をもとに編纂した。このハルマの辞典は見出し語(オランダ語)に対してオランダ語の説明があり、フランス語訳がつけられている。このオランダ語の説明部分を邦訳したのが『波留麻和解』であり、江戸版と関西版との2系統がある。本稿で参照するのは早稲田大学蔵の江戸版であり、『江戸ハルマ』と略称されている。

う。この語の理解は『英和对訳袖珍辞書』まで待たねばならない。

表 3.2 オランダ語の理解不足による『語厄利亜語林大成』の邦訳

語厄利亜語林大成 見出し語(英語)	語厄利亜語林大成 オランダ語訳	語厄利亜語林大成 邦訳	英和对訳袖珍辞書 邦訳	波留麻和解 邦訳
Bakehouse	<i>bakkerij</i>	陶家 セトモノシ	「パン」ヲ焼ク所	麦餅ヲ焼ク処
Baker	<i>bakker</i>	菓子師 クワシツクリ	「パン」ヲ焼ク人	麦餅ヲ焼ク人 パン ヲ焼ク人
Chopping knife	<i>hakmes</i>	斧 ヲノ	庖丁	庖丁
Curtain	<i>gordijn</i>	蚊帳	暖簾ノ類	戸帳 或 暖簾などの 類、垣牆 或ハ城内 或ハ上堤ノ間ナドノ路
Dialogue	<i>zamenspraak</i>	學語集	會話	---
Stockjobbers	<i>actionisten</i>	候視者 諸州ニ米往シテ巷 説ヲ候視スル者	出商ヒヲスル人	---
Fig	<i>vijg</i>	柿 カキ	無花果	---
To kiss	<i>kussen</i>	握手 テヲニギル	接吻スル	口ヲ吸ヒ手ヲ握ル

### 3.3 英語の理解不足による『語厄利亜語林大成』の邦訳

『語厄利亜語林大成』において英語の見出し語に対応して与えられているオランダ語訳に不適当なものがあるために、英語に対応しない邦訳になっているのがある。その 1 例だが英語 Kinsman のオランダ語訳が *neef* になっており、これを受けて邦訳が「甥 ヲイ」になっている。しかし Kinsman の意味は「男の親族」のことなので『英和对訳袖珍辞書』の邦訳「男ノ後胤」が適訳である。つまりオランダ語訳 *neef* が英語 Kinsman に対応していない。

編纂者である本木等の先生役は長崎のオランダ商館に勤務していたオランダ人ブロンホフ Jan Cock Blomhoff であった(勝俣 1936、古賀 1947)が、ブロンホフの英語の理解に問題があったためではないだろうか。表 3.3 に類例をまとめて掲げる。

表 3.3 英語の理解不足による『語厄利亜語林大成』の邦訳

語厄利亜語林大成 英語	語厄利亜語林大成 オランダ語訳	語厄利亜語林大成 邦訳	英和对訳袖珍辞書 邦訳
Beads	<i>koralen</i>	珊瑚	薔薇花ニテ造リタル髪飾
Kinsman	<i>neef</i>	甥 ヲイ	男ノ後胤
Kinswoman	<i>nicht</i>	姪 メイ	女ノ後胤
Vigilance	<i>wakkerheid</i>	強志	気配リスル
Wharf	<i>werf</i>	造船場 フナサイクバ	船ノ荷ヲ水揚ゲスル場
Whites	<i>zoost van bloemen</i>	花名	色ノ青白クナル病

なお表 3.3 でオランダ語訳はその邦訳と正しく対応しているのでブロンホフが英語の見出し語に与えたオランダ語訳が適訳で無かった。つまりブロンホフが当該の英単語に付いて理解が足

らなかったと考えられる。

### 3.4 多義の英語を『諳厄利亜語林大成』と『英和对訳袖珍辞書』で訳し分け

多義である英単語の邦訳が『諳厄利亜語林大成』と『英和对訳袖珍辞書』に別々に出ているケースがある。その1例だが、英語 Reins を『諳厄利亜語林大成』は「腎臓」と訳し、『英和对訳袖珍辞書』は「腰」と訳している。英語 Reins の邦訳としてどちらも正しいので「腎臓 又腰」と併記すべきだった。ただし『諳厄利亜語林大成』が英語 Reins のオランダ語訳を *nieren* としているが、*nieren* は「腎臓」であって「腰」ではなく、『英和对訳袖珍辞書』の底本である Picard (1857) は Reins のオランダ語訳を *lendenen* としているが *lendenen* は「腰」であって「腎臓」ではない。このように多義である英単語で『諳厄利亜語林大成』と『英和对訳袖珍辞書』とで別の意味になっているものを表 3.4 に掲げる、本来なら両方の訳語を併記すべきだったものばかりである。

これまではオランダ語訳をもとにして邦訳を得たという論が繰り返されてきてために英語の意味に合った邦訳になっているかどうかの検討がされていなかった。このため両義有る英語の一方しか見ていないオランダ語訳の問題点が論じられていなかった。

なお表 3.4 の中で注意が必要なのが英語 To fast を『諳厄利亜語林大成』が「緊 カタメル」としていることである。OED (2009) によると古い時代にこの意味としても使われたのが分かる。現代では「断食する」の意味で使うのが一般的である。

表 3.4 多義の英語を『諳厄利亜語林大成』と『英和对訳袖珍辞書』で訳し分け

諳厄利亜語林大成 英語	諳厄利亜語林大成 オランダ語訳	諳厄利亜語林大成 邦訳	英和对訳袖珍辞書 邦訳
Gall	<i>galle</i>	膽腑	胆汁
Hogshead	<i>oxhoofd</i>	桶 ラケ	量目ノ名
To fast	<i>vasten</i>	緊 カタメル	断食スル
Reins	<i>nieren</i>	腎臓	腰
Rennet	<i>leb</i>	飲劑名 乳汁ヲ器ニ貯ヘ其上面浮ヒ凝ルモノ	林檎ノ名
Slime	<i>slijm</i>	粘液	泥
To snort 又 snore	<i>snorken</i>	鼻鼾 イビキカク	嗅ク
Student	<i>student</i>	學生 ケイコスルモノ	孝者

### 3.5 『諳厄利亜語林大成』が正しくて『英和对訳袖珍辞書』が誤訳になっている邦訳

『諳厄利亜語林大成』が英語の意味に沿った正しい邦訳になっているが『英和对訳袖珍辞書』で誤訳になっているのがある。

その中に先の報告(三好 2012))で明らかにしたことだが、『英和对訳袖珍辞書』が オランダ語訳が多義であることに紛らわされて誤訳になっているのが 8 語<sup>3</sup>あるが、その中の 2 語が『諳

<sup>3</sup> 『英和对訳袖珍辞書』で オランダ語訳が多義であることに紛らわされて誤訳になっている 8 語は次の通り。

『語厄利亜語林大成』にも採録されている。それは Baiz と Yacht である。『英和对訳袖珍辞書』の底本である蘭英辞書 Picard (1857) が Baiz と Yacht に与えているオランダ語訳はそれぞれ *baai* と *jagt* であるが、*baai* には「港」と「毛織物」の両義があり、*jagt* には「狩」と「ヨット」の両義があるのに英語の意味に合わない方を選んで、Baiz を「港」とし、Yacht を「狩」と誤訳としたわけである。

『語厄利亜語林大成』では Baiz のオランダ語訳を *baijen* としているので、参考までに『波留麻和解』を引くと *baijen* は無いが *baij* があって「湊」であり、さらに *zie baai* (*baai* を見よ)とあって *baai* と同義としており、その *baai* には「織物ノ名 トロメンの美」と「港 内海」とが出ている。このように多義であるオランダ語訳では英語 Baiz が「港」か「兜羅綿」かの判断はできないが、『語厄利亜語林大成』は英語 Baiz の意味に合う「兜羅綿」という適訳を得ているのでフランス語の助けを得たと考えられる。

そして『語厄利亜語林大成』の Yacht のオランダ語訳は *plazier vaarting om te zeilen* と句の表現であるが、この句は多義ではないので「帆颿遊船 ホカケテハシルアソビフイ」という英語 Yacht の意味に合う邦訳が得られる。

ところでオランダ語訳が多義でないケースで『語厄利亜語林大成』が英語の意味に沿った正しい邦訳を得ているのに『英和对訳袖珍辞書』で誤訳になっているのがある。その1例が Veal である。『語厄利亜語林大成』の邦訳は「小牛肉 コウシノニク」であり適訳だが、『英和对訳袖珍辞書』では「カシハノ肉」つまり「鶏肉」となっており誤訳である。この件を含めて7件にこの問題が見られるので表 3.5 にそれらを示す。

表 3.5 『語厄利亜語林大成』が正しくて『英和对訳袖珍辞書』で誤訳になった邦訳

語厄利亜語林大成 英語	語厄利亜語林大成 蘭語訳	和蘭字彙 邦訳	語厄利亜語林大成 邦訳	英和对訳袖珍辞書 邦訳
Beat, bead	<i>kraal</i>	珊瑚	連珠	珊瑚
Groin	<i>lies</i>	草名 未詳	脛 マタ	草名
He goat	<i>geiten bok</i>	牡野牛	ソヤギ 牡野羊	牡野牛
Uttermost 又 utmost	<i>uijterste</i>	極ハズレノ、至極	極究 ゴクツマリノ	外ニ
Veal	<i>kalfsvleesch</i>	子牛ノ肉	小牛肉 コウシノニク	カシハノ肉
Velvet	<i>fluweel</i>	天鷲絨	天鷲絨 ビロウド	花ノ名
Yelk 又 yolk	<i>t geel van een eij</i>	卵黄	卵黄 タマゴノキミ	獣ノ名

註：『和蘭字彙』に *geiten bok* は採録されていない、ここでは *bok* から邦訳「牡野牛」を得た。

表 3.5 に『語厄利亜語林大成』の与えているオランダ語訳から英語に対する正しい邦訳が得

Baize を「港」、Coulter を「斬スル人」、Easel を「驢馬」、Inodorous を「大胆ナル」、Rear-admiral を「産婆」、Scion を「鴨」、Spavin 「吹き矢」、Yacht, を「狩」

られることが現代のオランダ語辞典(口蘭学会 1994)からも確認できる。しかし『英和对訳袖珍辞書』の邦訳は正しくない。先ず『英和对訳袖珍辞書』の底本 Picard (1857) は表 3.5 の中にある英語 Groin のオランダ語訳を *lies* としており『和蘭字彙』(桂川 1858) は *lies* を「草名」としているが正しくは「股の付け根」である。そして Picard (1857) は He-goat のオランダ語訳を *bok* としており『和蘭字彙』はこれを「牡野牛」としているが、正しくは「牡の山羊」である。さらに Picard (1857) は Bead のオランダ語訳を *kraal* としており『和蘭字彙』はこれを「珊瑚」と訳しているが正しくは「連珠」である。

これまでの通説では『英和对訳袖珍辞書』は Picard (1857) 辞書の英蘭部の与えているオランダ語訳を用いて『和蘭字彙』を引いて邦訳語を得たとされてきた。Groin、He-goat、Bead については確かに『和蘭字彙』から邦訳語を持ってきているが、そのために英語から見て誤訳になっている。『和蘭字彙』はオランダ人ドーフ (Hendrik Doeff, 1777-1835) が蘭仏辞典を邦訳したものがベースになっている(松田 1984)が、『和蘭字彙』の邦訳にこのような問題があることを指摘しておく。

ところで『英和对訳袖珍辞書』において英語 Uttermost 又 utmost、Veal、Velvet、Yelk 又 yolk に対して Picard (1857) が与えているオランダ語訳<sup>4</sup>から『和蘭字彙』を用いて邦訳語を得れば適訳が得られるのに『和蘭字彙』を用いなかったために誤訳になっている。その 1 例が上述した Veal である、Picard (1857) の Veal のオランダ語訳は *kalfsvleesch* であって『和蘭字彙』から「子牛ノ肉」という適訳が得られるのを見逃している。つまり、英語 Uttermost 又 utmost、Veal、Velvet、Yelk 又 yolk の邦訳は『和蘭字彙』に適訳があるのにそれに拠らなかったために誤訳になっている。

### 3.6 『英和对訳袖珍辞書』の邦訳から見た『語厄利亜語林大成』の邦訳の問題点のまとめ

『語厄利亜語林大成』と『英和对訳袖珍辞書』で意味が異なっている見出し語が 35 語あることを上述した。それらは、3.1 で述べたオランダ語が多義であることに紛れて誤訳になっている 4 語(*sable*, *anle*, *awl*, *shovel*)、3.2 で述べたオランダ語の理解不足である 8 語、3.3 で述べた英語に対するオランダ語訳が適切でない 6 語、3.4 で述べた多義である英語の一方だけを取り上げている 8 語、および 3.5 で述べた『語厄利亜語林大成』では適訳を得ているが『英和对訳袖珍辞書』が誤訳になっている 9 語<sup>5</sup>である。

3.2 では当時のオランダ語力の問題の一端が見えること、3.3 では英語に対するオランダ語訳に問題があったことが浮かび上がってきた。

3.4 では両義有る英語の一方の意味しかオランダ語訳が与えていない問題点を明らかにした。そして 3.5 ではこれまで『英和对訳袖珍辞書』の邦訳は『和蘭字彙』に拠ったとされてきた(森岡 1960) ; Nagashima (1993) ; 櫻井 (2011))が、『和蘭字彙』に拠ったために英語から見て誤訳になった邦訳と、『和蘭字彙』に適訳があるのにそれに拠らなかったために誤訳になった邦訳

<sup>4</sup> Picard (1857) のオランダ語訳を英語の後ろの()内に示す : Uttermost 又 utmost (*uiterst*), Velvet (*fluweel*), Yelk 又 yolk (*dojer*)

<sup>5</sup> 文中で述べた 2 語(*baiz*, *yacht*)と表 3.5 の 7 語を合せて 9 語

があることが明らかにできた。

#### 4. 結び

文化11年(西暦1814)年に編纂された英和辞書である『諸厄利亜語林大成』と文久2年(西暦1862)に刊行された『英和对訳袖珍辞書』はともに江戸時代を通して学んできた蘭学の知識の上に立っている。そして英語と日本語から見て多義であるオランダ語があり、その場合はオランダ語だけでは英語に対する日本語の適訳が得られないことを筆者は先の報告(三好 2013)で明らかにしたが、これらに先行して文化9年(西暦1812)年に編纂された『諸厄利亜興學小笈』でもオランダ語が多義であるケースの対応が出来ていたことを明らかにすることが出来た。

また『諸厄利亜語林大成』を編んだ関係者の言語能力(オランダ語、英語、日本語)に若干の問題があったことを例証した。

さらに多義である英語に対するオランダ語訳が一面の意味しか与えていないために、その英語に対する邦訳が不十分になっていることを例証した。英語に合った邦訳を得るためにオランダ語訳の検証が必要である。

そして従来、『和蘭字彙』との邦訳語の一致が追及されてきた『英和对訳袖珍辞書』であるが、『和蘭字彙』にある邦訳を採ったために英語から見て誤訳になっている場合があり、『和蘭字彙』にある邦訳を採らなかったために誤訳になっている場合があることを『諸厄利亜語林大成』との関係で例証した。オランダ語訳を介した単純な邦訳語の置き換えに拠った人と、それを避けた人との角逐が見られる。

総じていえば幕末の時点ではオランダ語から離れる動きが見られるものの、英学はまだ独り立ちできていなかったと言えそうだ。

#### 参考文献

- 堀達之助編(1862)『英和对訳袖珍辞書』江戸：洋書調所  
 稲村三伯訳編(1796)、ハルマ原著『波留麻和解』江戸：(出版社不明)早稲田大学蔵  
 勝俣銓吉郎(1936)『日本英学小史』東京：研究社  
 桂川甫周 [ほか校訂](1858) Doeff, Hendrik 訳『和蘭字彙』江戸：山城屋佐兵衛  
 古賀十二郎(1947)『徳川時代に於ける長崎の英語研究』福岡：九州書房  
 松田清(1984)「『ドゥーフ・ハルマ』初稿の翻刻ならびに『和蘭字彙』、ハルマ『蘭仏辞典』との訳語対照」『海南手帖』高知大学仏文研究室 2:1-114  
 三好彰(2012)『英和对訳袖珍辞書』の構成法の考察『東京大学言語学論集』32: 67-84.  
 三好彰(2013)「『諸厄利亜語林大成』と『英和对訳袖珍辞書』に見る黎明半世紀の英学の進展」『東京大学言語学論集』34: 297-310.  
 本木庄左衛門(正栄)編(1814)『諸厄利亜語林大成』長崎  
 本木正栄(1982a)『諸厄利亜語林大成 草稿』(長崎市立博物館所蔵本の複製) 東京：大修館書店

- 本木正栄 (1982b) 『諸厄利亞興學小筌 草稿』(長崎市立博物館所蔵本の複製) 東京:大修館書店
- 森岡健二編著 (1960) 『近代語の成立 明治期語彙編』東京:明治書院.
- Nagashima, Daisuke (1993) “Bilingual lexicography in Japan: the Dutch-Japanese to the English-Japanese dictionary”, pp. 249-255, *World Englishes*, Vol. 12, No. 1
- 日蘭学会 (1994) 『オランダ語辞典』東京:大修館
- OED (2009) *Oxford English Dictionary, Second edition on CD-ROM Version 4.0*, New York; Oxford University Press
- Picard, H. (1857) *A new pocket dictionary of the English and Dutch Languages*, 2d ed., rev. and augm. by A.B. Maatjes, Joh. Noman: Amsterdam
- 櫻井豪人 (2011) 「『英和对訳袖珍辞書』初版草稿の諸相と蘭書の利用」『日本語の研究』7(3):17-32

# Some Comparative Considerations of Japanese Expressions in English-Japanese Dictionaries Compiled in the Edo Period

Akira Miyoshi

**Keywords:** English-Japanese dictionaries in the Edo Period,  
Dutch-Japanese dictionaries in the Edo Period,  
Dutch Interpreters

## Abstract

It has been hitherto considered that all Japanese words in the English-Japanese Dictionaries compiled in the Edo period were obtained by translating through a corresponding word in Dutch. However, Shoei Motoki, chief compiler of the first English-Japanese dictionary compiled in 1814, indicated that there are some instances where it is not possible to get the proper Japanese word by translating from English to Dutch, and then into Japanese. The present author has made clear the method, in his previous paper, for obtaining the correct Japanese word as Motoki indicated. The current paper makes it clear that the problem was also successfully solved in the first English-Japanese vocabulary compiled by Shoei Motoki in 1811.

However, there are several improperly translated Japanese expressions that show insufficient understanding of Dutch and English words in the English-Japanese Dictionary compiled by Shoei Motoki in 1814 and that by Tatsunosuke Hori in 1862.

(みよし あきら)